

# 平成30年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

## (個人留学による帰国報告)

### ●氏名

SHさん

### ●留学先

国/都市：米国/アラバマ州

外国の高校：RUSSELL COUNTY High School

Stanhope Eimore High School

### ●留学期間

2018年8月7日～2019年6月12日

### ●留学先での活動、留学で学んだこと

私は、アメリカ、アラバマ州で10か月を過ごした。その中で起こったたくさんの出来事の一部を話していこうと思う。

まず一つ目は、ホストチェンジをしたことだが、それは前のホストファミリーと住んでいたアパートで小さな発砲事件がおきたのが原因だ。12月14日、早めのクリスマスパーティーをETC(私が使っていたアメリカの団体)のみんなで行うことになっていたので車で二時間ほど離れた別の町に出かけていた。みんなで楽しんだ後、深夜の12時くらいにホストマザーと帰宅すると駐車場にはパトカーが止めてあり、警察二人ほどが懐中電灯を照らして何かを探しているようだった。そして私たちが「308号室に住んでるが、通っても大丈夫か。」と聞くと、10分ほどした後に「ここは踏まないで」と言われやっと家に着くことができた。次の日に分かったことは、すぐ斜め下の家の前で黒人男性二人が取り組み合いをしていて、片方の男性のポケットに入っていた銃が男性自身の足に落ち、銃が発砲されたそうだ。幸いなことに発砲した人以外はけが人がいなく、その人はアパートから追い出されたそうだ。私は、怖くなってこのことを両親に伝えると、両親も心配に思い、ホストチェンジという話が持ち上がった。ホストマザーからすると、これくらいのことは日常的で、住んでいるアパートから事件を起こした人を追放するなど何かしらの対処がなされたなら何も問題がなかったかのようにホストマザーが話を進めだした。その時は信じられなかったことだが、きっとそれくらいの割り切りをしないとこの銃社会では生きていけないのだということを後で気が付いた。銃が身の回りにない中で育った私には、次同じ事が起こった時に今度は自分で自分の身を守れるかが心配だった。この時人生で初めて、アメリカ人と日本人の銃への価値観の違いを痛感した。しかし、私の留学期間中に一度ちいさな地震が起きた時、私は全く動じなかったがアメリカ人の怖がりようは想像以上のものだった。自分が生まれ育った環境次第で恐怖を抱く対象がこれほど異なるということが分かった。

二つ目は、人との接し方だ。私は学校の手続きが間に合わず、学校が始まった一週間後から通学し始めた。初めてアメリカの学校に行った日は、緊張しすぎて何も話せなかった。真面目に授業

を受けお昼の時間になると地獄だった。一週間遅れて入ったせいでみんなの座る席は決まってい  
行く場所がなかった。とりあえず、ランチルームの奥のほうに行き一人でご飯を食べていると、後  
ろの席でご飯を食べていた数人、のちのランチメンバーが話しかけてくれて初めて話すことがで  
きた。私の通っていた高校は今まで全くと言っていいほど留学生を受け入れたことがなかった。な  
ので、みんな全く話さない私などに興味をしめさなかった。しかし、その子たちに話しかけてもら  
ったおかげで自分の英語は頑張れば伝わるという自信が付き、どんどんほかのクラスでも友達を作  
ることができた。本当に、大好きだったランチメンバーに感謝の気持ちでいっぱい。今思えば、も  
っと初めからオープンに行くべきだったなと心から思う。そして私は、その学校を半年で去るこ  
とになった。ホストチェンジをした際に学校も変えることになったのだ。それは、自分の意志ではな  
く、ただ単に同じ学校の地域内でホストファミリーを見つけられなかったためである。二学期から  
別の学校ということです。こし緊張していたが、私はこれをプラスにとらえた。もし、この学校で始  
めに明るい印象を与えることができたなら、私はもっと友達を作れるのではないかと思った。そして、  
とうとう迎えた初日それは見事的中した。たくさんの友達ができただけで緊張が吹っ飛び楽しさ  
しか残っていなかった。この経験を通して、人と接するときには第一印象がとても大切だというこ  
とを学ぶことができた。

三つ目は、食への意識の差だ。日本人は、バランスを考えて食事を作り、足りない栄養分は食事  
で補おうとするが、アメリカでは食べたいものを食べて、足りない栄養分はサプリなどで補おうと  
する傾向がある。私がアメリカで風邪をひいたときに夕食でラーメンが出た。日本ではおかゆなど  
の消化に良いものを食べるのが一般的だが、アメリカは風邪をひいたからと言って食事を変えるわ  
けではない。これを通して、どれだけ日本人が食事に気を使っているかを知ることができた。

四つ目は、学校の教育方針の違いだ。アメリカではノートをとることをあまり重要視せず、生徒  
が意見などを発することを求めている。生徒も日本とは違って自分の意見を怖がらずに発する。ま  
た、テストの点数が成績に及ぼす影響度が日本ほど高くなく、小テストなどではオープンノートと  
言ってノートを見ながらテストを受けていい時もある。そして、プロジェクトと呼ばれる普通の宿  
題よりも重要度が高い大きな宿題が二か月に一回ほど出る。これは、テストよりも配点が高くなっ  
ていて、日ごろからコツコツやることを重視しているということがわかる。

私はこの留学を通して、自分自身をもう一度見つめなおし、変わることができたと思う。自分  
の意見をストレートに言えるようになったこと、短絡的な一面を直せたことや家族の大切さを改め  
て感じ両親をもっと尊敬すること。海外でも、友達をたくさん作れて、最後には泣いてくれる友達  
や私の家はあなたの家だからとまで言ってくれる友達ができ、私は留学して本当によかったと心  
から思う。日本にいては、絶対に経験できないことをこの歳で経験できたことは、これからの私の  
人生での強みになると確信している。一生ものの思い出、友達、第二の家族など絶対に忘れたくな  
いもの、忘れるわけがないものをこれからも大切にしていきたい。この歳で留学させてくれた両親  
に感謝の気持ちでいっぱい。

